

三門の前方後円墳(豆塚古墳)

はにわ
郡市で唯一埴輪が出土

三門では、外房線の建設の際に、前方後円墳が見つかり、そこから人物や家、水鳥などの埴輪はにわが出てきました。鏡や刀も出土したそうです。6世紀ころのものと思われており、豆塚古墳と呼ばれています。三門駅の近くに小さな鳥井が立っており、かすかに古墳の位置を示しています。

前方後円墳と言えば、486mもあり、世界最大のお墓である仁徳天皇陵じんとくてんのうりょう(大阪府堺市)を連想する方も多いでしょう。鍵穴のような形で、後円部は、前方後円墳で最も大切な場所で、そこに亡き首長を埋葬し、盛大に埋葬祭祀が行われてきました。

古墳は大多喜町や旧夷隅町にもいくつかありますが、埴輪が出たのは夷隅郡市ではここだけです。残念ながら鉄道建設の際に古墳はこわされ、鏡や刀もいつしか失われたとのこと。埴輪は現在、睦沢町立歴史民族資料館に「三門古墳の埴輪」として登録・保存されています。



豆塚古墳から出土した埴輪



参考：『岬町史』岬町 昭和58年